

台中の辣腕市長

伊東豊雄
建築家

台

中市は台北、高雄に次いで台湾第三の都市で人口約百二十万、この市長胡志強氏は外交官出身と聞くが、豪快かつ魅力に溢れた人である。現在の台湾政府總統とは逆の国民党に所属するが、自らの意志を徹底して貫く。

この街で一昨年の暮れ、オペラハウスのコンペティションがあった。二千席余りの大劇場を始めとする三つの劇場のコンプレックスで、台中市には過剰とも言える規

模である。世界各地からの公募でスタートしたコンペティションは段階を経て絞り込まれ、最終審査は5チームのインタビュールによって競われた。その結果、ロンドンに拠点を構える女性建築家、ザツハ・ハデイド氏との一騎打ちの末に、我々の案で実施されることになった。

我々の提案は外形は矩形にカットされているが、内部は至るところ白い洞窟の如き様相を呈している。模型か図を見ていただけかないと、到底説明不能な程、複雑な三次元曲面の連続する空間で構成される。洞窟の内部を音が伝わっていくスリルをオペラハウスの空間として建築化したいと考えたのである。審査員も我々の案をすごく気に入ってくれたのだが、問題は予算

である。応募要項に示された建設費では実現不可能とインタビュールで答えたのだが、胡市長もこの案を大変気に入ってくれた。自分が中央政府とかけ合って追加の予算を獲得してくるから、と約束してくれたのである。そして約束通り昨年末までに、何と当初の一・五倍の建設費を確保してくれた。日本ではおよそ考えられない事である。先頃、市政府の要人達を引き連れて日本を訪れた市長は開口一番、「私はあなた方の要求を実行した。あなた方も私の任期である2009年末までに建築をオープンする約束を忘れないでね、あつはつはつ」と豪快に笑う。ちなみに大劇場の客席は2009席と決められている。必死の設計作業が続く毎日である。☺